

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790400378		
法人名	株式会社ホライズン		
事業所名	グループホーム三和		
所在地	福島県いわき市三和町渡戸字峠平33 - 1		
自己評価作成日	平成23年10月10日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人福祉ネットワーク
所在地	いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	平成23年11月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム内だけの生活ではなく、外出・外食・外泊・買い物、またご家族との交流を図りストレスのない暮らしが継続できるように心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

一人ひとりの人権、人格を尊重し、本人の立場に立った物事の見方を大切にして、希望に沿った自由な暮らしが出来るように支援している。
管理者と職員は、ケアサービスの向上を目指し、研修やミーティングの機会を増やして相互理解を深められるよう努めている。
地域と交流を深め、認知症に対する理解を広めていけるよう取り組みを行なっている。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な く過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 係者とのつながりが広がり深まり、事業所 の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね 満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスに おおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着の事業所理念として掲げているものの、日頃から職員と共有し実践につなげられていない。	事業所理念が職員に浸透し、共有出来るように、研修会やミーティングの機会を設けて取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	少しずつ地域とのつながりができているが、日常的な交流は図れていない。	地域の学校行事に参加したり、体験学習を受け入れたりしている。地元のお祭りや、近くにある「ふれあい館」で催されるイベントにも参加して、地域との交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解や支援の方法を、地域貢献として発信できていない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見やアドバイスはとても貴重なので、今後のホーム運営に取り入れサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、地域に受け入れてもらえる事業所にしていくために、活動報告・地域情報・その他について話し合い、サービスの向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市とは、現状報告や質問も含め日常的に担当者と連絡を取り、協力関係を築いていけるようにしています。	市の担当者とは、スプリンクラー設備の設置のことなどで、頻繁にやり取りが行なわれている。震災時は、迅速な連携が取れ、日用品や食料品の調達をスムーズに行うことが出来、対応することが出来た。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修に参加し身体拘束をしないケアの重要性を理解し、実践している。また、玄関の施錠は夜間のみである。	玄関に施錠はしておらず、自由に過ごせるように支援している。外に出かける利用者には、さり気なく言葉かけをしたり、様子を見守ったりしながら、拘束しないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加し、虐待の意味を理解し職員にも周知させ、虐待防止に努めている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	それらの制度について重要さは理解しているものの、学習の機会を持てなかったので今後さらに理解を図り、活用できるようになりたいです。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、ご理解ご納得を得ているものと考えています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族と話をし、意見や要望を聞いています。またその意見や要望は出来る限り運営に反映させ、サービス向上に努めている。	利用者からの意見は、職員から管理者に速やかに伝えられている。家族が遠方の場合手紙でやり取りをし、出された意見や要望を、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見は管理者へ直接伝わり、その意見や要望について運営に反映させ、また必要があれば皆で話し合いをしている。	管理者と職員は何でも話せる態勢ができている。職員同士で、仕事についてざくばらんに話し合ったり、ノートを活用して意見を出し合い、それらを管理者に伝えて、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境や条件の整備は、これからさらに向上させていかなければいけない課題の1つだと思います。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の参加が少ないので、個々の力量に応じた研修等にて育成したいと考えます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流のある施設との研修や情報交換等しているものの、これからさらに充実させていきたいです。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○ 初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前にご本人とお会いし、できるだけ不安を払拭できるようしっかりと話ができる時間をとっています。		
16		○ 初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	どのような生活を望んでいるのかをしっかりと把握し、いつでも連絡が取り合えるようにしています。		
17		○ 初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人にとってグループホームという選択がベストなのかを、ご家族や関係者も含め話しあいます。		
18		○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	まだ不十分な点もありますが、共に支えあうという関係で過ごしております。		
19		○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と共にご本人を支えていくという形で支援しているものの、全ての家族が同じ思いではないのも事実です。		
20	(8)	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までに交流のある友達や、馴染みの場所など、本人が大切にしていく部分は継続して関わりあえるように支援しています。	友達と外出する時は、必ず家族と連絡を取り、確認している。花見などにも出かけて、毎年の楽しみを味わうことが出来るようにしている。これまでの馴染みの関係が途切れないように支援している。	
21		○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係をしっかりと把握し、どのように関わるのがベストかを常に考えている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後においても、利用者またはその家族との関係性を大切に、依頼があれば相談にのったり出来ることは支援している。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりと話す機会を設け、思いや意向を聞き取っている。	日常的な会話などから、利用者の思いを把握出来るように努めている。人格や尊厳を大切に、表情などからも思いをくみ取り、本人の立場に立った物事の見方で解決するよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やその家族、関わりあっている人も含め、可能な限り聞き取りをしこれまでの経緯について把握するようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的に情報収集し、本人ともお話するなど、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向、また現状や疾患等を勘案した計画作りを心がけているが、職員の理解や意見、アイデアについてまだまだ不十分である。	介護計画は、業務内での申し送りノートなどからも意見を検討し、本人や家族、ケアマネージャー、管理者など必要な関係者と話し合い、作成している。	管理者と職員で、ミーティングする機会を設け、介護計画とモニタリングについて、更に相互理解を深めることが出来るよう期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個人記録を重視し、情報を共有しながら、支援の方法や計画見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時で変化するニーズをしっかり把握し、最も適した支援ができるよう心がけています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用し、それらを日々の暮らしの中で有効に楽しめるには至っていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を最優先とし、緊急的な医療の提供も鑑み、適切に対応できるようにしている。	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診が出来るように支援している。協力医療機関との連携も取れていて往診なども定期的に行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の変化や気づきがあれば、外部の訪問看護師と連絡を取り指示を仰ぐようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院設備のある病院と協力関係にあり、利用者の状態や今後の治療方針も含め、相互に情報交換できる状況にある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「入居者の重度化と終末期の対応方針」を説明し同意を得ている。また終末期をどこで迎えたいかなど希望を聞き取り話し合いをしている。	入居時に、事業所の重度化や終末期に向けた対応方針を説明し、同意を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	理解はしているものの、定期的な訓練を行っていないので実践力は身につけていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練や勉強会を行い、避難方法やルート、対応方法など理解はしているが、まだ万全であるとはいえない。	近隣の人達とは日頃から交流があり、災害時に援助を受けられる関係が出来ている。訓練は定期的に行われている。今回の震災で、電話が不通になってしまったことがあったので、NTT伝言ダイヤルを利用して、災害時でも連絡がとれるような方法を確立した。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格を尊重し、言動には十分配慮し対応している。	職員は、一人ひとりの人格を尊重し、言葉掛けに配慮し馴れすぎる弊害に気を付けている。車椅子の利用者の排泄についても、「部屋へ行きましょう」などと、さり気ない言葉掛けをし、尊厳を傷つけない対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望は表せている。また、日常生活の日課や買い物等の外出についても自己決定を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方のリズムやペースを大事にし、その人らしい生活を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容や洋服の選択なども、本人らしさを重視し、清潔感がある身だしなみの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備などを一緒にできるように声かけし、出来ることはお願いしている。しかし、職員は利用者と一緒に食事をとっていない。	職員は利用者が出来ることを見極め、食事づくりや片付けを、一緒に行えるよう支援している。食事中は、穏やかで、食事を楽しむ雰囲気が見られている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方の疾患も勘案し栄養バランスも考えている。また1日の食事量と水分量も把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの支援を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をつけてそれぞれの状態を把握している。その状況を見ながらオムツ使用であっても、トイレ排泄ができるように誘導している。	排泄チェック表などで、一人ひとりのパターンを把握しながら、トイレ誘導を行なっている。夜間だけおむつ使用の利用者は定時チェック、自立の利用者には見守りするなどして、個々の力で排泄出来るように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物や運動で、できるだけ自然に排泄できるように支援している。それでも困難な場合は主治医に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1番風呂に入りたいなど、希望に合わせた入浴支援をしている。入浴拒否の方にはタイミングをずらし声かけしたり、状況によっては清拭するなどしている。	一人ひとりの希望に対応し、声かけや時間、タイミングにも工夫して、出来るだけ入浴してもらえるように支援している。身体状態により入浴出来ない利用者には、部屋を暖めて清拭を行なっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調や、リズムに合わせて休息できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	どのような薬を服用しているのか理解しています。副作用や変化などをよく観察しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれ異なる役割、楽しみ事などを理解し、満足できるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望により、近くを散歩したり買い物に出かけたりしている。お墓参りや外泊などはご家族の協力を得るようにしている。また友人とお茶飲みに出かけたりもしている。	地域のイベントに参加したり、近所の散歩をしたり、出来るだけ戸外に出掛けている。利用者の希望に、日々、対応し、買い物・散歩・近くにあるふれあい館などにも出掛け、顔見知りの人とも交流し、リフレッシュすることが出来ている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その方の希望や力に応じ、お金の所持、使用をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日常的に電話や手紙のやりとりを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある利用者手作りの作品等を展示し、居心地のよい空間作りを心がけている。その時の気分でテーブルやソファ等、居場所を選んで過ごしている。	木のぬくもりのある共用空間には温かみのある色合いのソファが置かれ、開放感のある天井により、光もやさしく、明るい。利用者手作りの作品を展示し、居心地良く過ごせるよう工夫され、思い思いの場所でくつろげるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られたスペースではあるが、気の合う方々でお話をして過ごしている場面もよく見られます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅にて使用していた整理タンス、テーブル、こたつ、位牌や冷蔵庫など持ち込んでおり、居心地良く過ごしていただいております。	居室は、自分の作品や好みの物を飾ったりして、個性を大切に、安心して生活出来るよう支援している。希望で冷蔵庫なども置くことが出来る。入居者同士の交流も出来ている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや、洗面所、居室においても混乱しないように配慮するなど、それぞれが安心して過ごせるような環境作りに努めている。		